

# 非核の政府を 求める大阪の会

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉 梅田 章二  
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)  
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033  
 URL・https://hikaku-osaka.jp/  
 E-mail・hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp  
 hikakuosaka@hotmail.com

第232号 2026年3月1日 **ニュース**

激動する  
国際情勢と  
法の支配

## 「非核の政府」実現に向けた 私たちの 実践課題



非核の政府を求める大阪の会は、2月21日大阪市内で第40回年次総会を開催しました。第一部に日本反核法律家協会の大久保賢一会長の記念講演、第二部に年次総会を開催しました。

国際法に違反するロシアやイスラエル、さらに米国大統領のトランプは“国際法は必要ない”とまで発信する世界の政治指導者。人類滅亡までの残り時間をカウントダウンする

「終末時計」が過去最短の「残り85秒」に更新されています。

記念講演は、1955年の「原爆裁判」を軸にそれからの70年の闘いを振り返りながら、国際・国内の危険な情勢を分析しながら、「非核の政府」の実現の重要性と実践課題を明らかにするものでした。

被爆者の訴えは、原爆投下を違法と断定しながらも、原告の被爆者の損害賠償請求を却下する「政治の貧困」を嘆くものでしたが、その後の核兵器の違法化、被爆者援護に影響をあたえました。

原爆投下直後の日本政府は、明確に国際法違反と主張していましたが、戦後の日本政府は手のひら返して「国際法違反ではない」と主張し、原爆投下を「犯罪」、核兵器の持つ非人道性の曖昧化を図



つてきました。

今日の高市政権を「核とドルの傘の下で生きていく」姿勢を一層強めている、と分析し、総選挙中に他国への内政干渉ともいえるトランプ大統領の応援をえて、ますます「自発的従属」的になると予想します。そのような困難な情勢のなかでも、核兵器禁止条約参加国は99カ国（2025年9月）となつていきます。今年11月、再検討会議が開催されます。国際世論は核兵器禁止から廃絶へ向かう必然性があります。反核・平和運動は不滅。

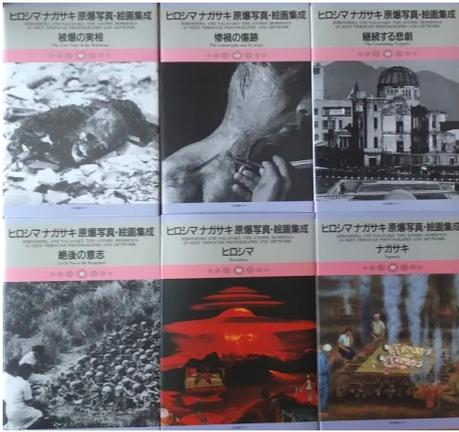
第二部の総会は、豊島事務局長が「情勢」「経過報告」「方針案」「会計報告・予算案」を提案、猪腰監査役から「会計監査」報告があり、討論に入りました。

第一部の記念講演、総会を含めて、9名の参加者から発言がありました。

新人事を含めて拍手で採択されました。閉会の挨拶に大阪憲法会議の梅田章二氏からまじめの発言があり、秋に設立40周年の記念行事を講師の神田香織さんの「はだしのゲン」が予定されており、ご参加をお願いして記念すべき第40回の年次総会は終了しました。

### 【非核五項目】

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する



▲ヒロシマナガサキ原爆写真・絵画集成(全6巻)

今回紹介する書籍は、『原爆写真集成』4巻と『原爆絵画集成』2巻から構成されています。被爆の実相を伝える代表的な写真・絵画が網羅されています。写真集成には、土門拳氏や森下一徹氏、絵

年刊行と少し古いものではありますが、被爆者のお話を聞くとともに写真・絵画を通して改めて核兵器ノ・戦争ノの世論を強くしていくこと

面集成には丸木夫妻や平山郁夫氏ら著名な文化人の作品、さらに米軍返還資料など、文字通り集大成の作品です。1巻の序に家永三郎氏の「映像記録の意味するもの」で、本企画の重要な位置づけが述べられています。「戦争の惨禍を再びそれを起こらないようにするため」「それを忘れ去ることを、その再発をくいとめるための歯止めを取り去る危険につながることを考えなければならぬ」と述べています。

- ◇ 1巻 被爆の実相 被爆直後の惨状にカメラを向けた写真家たちの映像で構成
- ◇ 2巻 惨禍の傷跡 原爆の爪痕は、生き残った人々苦しめま
- ◇ 3巻 継続する悲劇 土門拳は二度原爆に
- ◇ 4巻 絶後の意志 1980年代の反核運動が大きくなる中、原爆を撮った写真家たちの仕事
- ◇ 5巻 絵画集 ヒロシマ
- ◇ 6巻 絵画集 ナガサキ

が求められています。1987年の平和行進：国民平和行進30周年国民平和行進実行委員会主催の行進(2-9)

1987年、平和行進開始30年の節目にあたる1987年原水爆禁止国民平和行進は、原水爆禁止世界大会実行委員会の提唱により、原水爆禁止世界大会の成功をめざす国民運動としてとりくまれました。とくに「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名運動と固く結んで、例年を大きく上回る規模と創意工夫に満ちた多彩な内容で大きく成功をしました。大阪でも、7月2日から9日の間、国民平和行進大阪実行委員会主催により、府下網の目行進として取り組まれ、大きく成功をおさめました。また、市民団体による市民平和行進は、昨年



ほぼ同時に並行的行進を行いました。87年世界大会の成功を願う市民団体の努力により、相互にエール交換、通し行進者相互の交流会などを実施するなど、互いに励まし合う行進として実施され、国民平和行進との連帯・共同を一層発展させました。残念ながら、「原水禁国民会議」総評は前年に続いて全く別コースの行進を行いました。

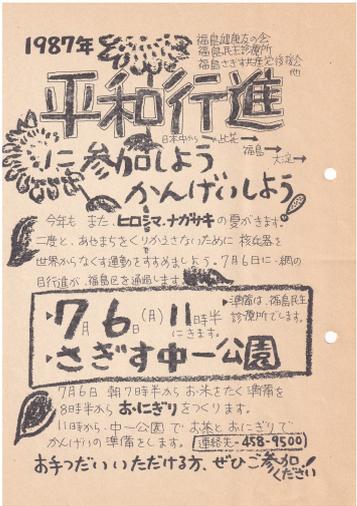


▲堺を行進する国民平和行進(提供:大阪民報)

87年行進の情勢の特徴は、レイキャビックでの米ソ首脳会談で明らかになった核兵器廃絶の実現を阻む最大の障害が、核兵器固執

勢力の核脅迫・核優位を図る立場と政策です。その政策を中曽根自民党政府は、核持ち込みに関する日米核密約、ASEAN外相会議でのアジア非核地帯構想に対する露骨な妨害・干渉、自民党作成の「好核パンフ(非核宣言は有害です)」(85年作成)の再発行など、核兵器廃絶を求める世論を抑え込もうとする策動との闘いが重要なものとなっていました。とくに1985年の被爆40周年の年、国会で「究極的核兵器廃絶」決議を日本共産党を除く会派で採決し、核兵器廃絶の緊急課題としての運動が重要な課題となっていました。核兵器廃絶国際署名の「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名の推進が強く求められていました。前年の86年統一世界大会から「原水禁国民会議」総評は脱落し、別個の8

7年世界大会を開催しました。  
 大阪では、中央の方針をうけ、5月19日に大阪実行委員会が発足し、原水協加盟団体と主旨賛同の19団体（大阪統一労組懇、大教組、府高教、市高教、衛都連、府職労、国公、学現労、自交総連、運輸一般、医労連、大商連、民青、府学連、新婦人、安保、平和、共産党）で構成しました。行進コースとして図表にあるように21コース（基幹コース8コース、網の目コース13コース+2コース）を行進しました。行進の内容は、延べ参加者7500人（昨年6600人）、基幹コースの平均参加者は260人（昨年250人）と昨



◀西淀実行委員会作成チラシ

年を上回る参加者で「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」

新常任世話人 竹馬由貴子氏（新日本婦人の会）  
 新日本婦人の会大阪府本部の竹馬由貴子です。このたび「非核の政府大阪の会」の担当になりました、よろしくお願いします。



兵器が使われなかったのは、被爆者の証言と市民の草の根の運動が「核兵器は使ってはならない」という規範を築き、核兵器禁止条約を結実させてきたからです。被爆国である日本が批准してこそ、核のない世界へ大きく貢献できるはずです。

意見広告ポスター完成しました。ご協力ありがとうございました。ごさいます。

非核の政府を求める大阪の会が多くの人々の賛同・協力を得て作製した、2025年の非核意見広告ポスターが完成し、活用が始まっています。御賛同いただいた皆さまに感謝致します。

政府高官は「核兵器を保有すべきだ」と発言するなど、核兵器禁止条約への参加を求める被爆者や世界の圧倒的多数の人々の声に背を向け続けています。

そのような中、世界の核兵器禁止条約参加国は、国連加盟国の過半数を超え、確実に前進、世界の人びとに励ましをもたらしています。

署名が印刷された返信用はがき32000枚、うち260枚（署名930名分）が返送されてきました。非核平和施策充実自治体要請は26自治体（基幹コースの自治体、但し大阪府・市を除く）、日米核密約糾弾決議28か所（出発集会・集結集会）であげられました。市民平和行進と4回のエール交換が行われました。

戦後・被爆80年の節目の昨年、広島の世界大会に参加し、被爆者の方々の生々しい証言に心を揺さぶられました。また、世界で同じように核兵器をなくす運動をしている仲間がいることにも希望を感じました。

広島の高校生が描いた原爆の絵展を身近なところで開催するなど被爆の実相を伝え、署名にもさらに取り組んでいきます。世界に誇る憲法9条と平和を守り、これからも私たちが黙らずに発信、対話を続け、行動する平和の仲間ふやして、核兵器のない世界へとご一緒に頑張りましょう。

核兵器が国際法によって違法化されたにもかかわらず、アメリカトランプ大統領は、核実験再開を指示するなど、核兵器による威嚇を繰り返しています。

ウクライナ侵略、そしてパレスチナ・ガザ地区への攻撃など戦争が収まる気配すらなく、

このポスターが草の根の共同行動で、戦争も核兵器もない非核の日本の実現に向けて役立つことを願っています。

4月には、NPT再検討会議が開催され、核兵器廃絶への進展が期待されます。

今回のポスターは、一日も早い戦争の終結と核兵器廃絶、非核の政府実現の一助にとの想いで製作しました。

87年の大阪における平和行進は、全行政区を通過し、泉佐野以南においては網の目コースが2コース追加され、堺・泉北ニュータウンコースでは520名の参加者で成功するなど、地域での取り組みが発展しました。

今、軍備拡大が進み、非核三原則の「持ち込ませず」を見直そうとする危うい動きがあります。しかし、戦後核



日本政府・高市政権もまた、核兵器禁止条約に署名も批准もせず、あろうことか「非核三原則の見直し」を公言、



記念すべき

第40回

総会感想・メッセージ

大変寒い時期になりました。長い間ごぶさたしています。いつも資料や報告を頂き大変参考になっております。私はだいぶ歳もとり、

で10数回府下のあちこちに「語り部」で出て行きましたが、ムリは禁物です。今年も可能な限り活動したいと考えています。選挙もあり大変な時、健康に留意されてご活躍ください。原水協・平和委員会の皆様にもよろしくお伝えください。

山川美英(寝屋川)

私は戦後80年を生きてきた。戦後から暫くの間は、戦場から帰ってきた元兵士や被害を受けた人々があふれていた。ほとんどの人が真から平和の有難さを子供達に語っていた。今、その世代の人々は去ってしまった、生々しい戦争の悲惨さを語る人々はいなくなってしまった。先代から直接私達は伝えてもなかった事もあり、次の子供達や孫達に機会を作って伝える事の大切さを感じました。大久保先生のお話から個人の思う平和と国や政府の想定する平和や戦争についての考え、法令にした時のズレの大き

さ、又これを縮めることの大変さを考えました。日本での平和と戦争阻止、核兵器禁止の声が世界に届き、ノーベル平和賞の受賞にまでありました。大小の波の変化、風の大きさにあわせて一貫して核兵器等の廃止に取り組みたく思います。大久保先生、遠方より有難うございました。総会を成功させて下さった事務局の皆様へ感謝致します。(A・K)

先日の選挙の結果は残念でしたが、弁護士の方々の話や参加者の平和への訴えを聞いて心強かったです。総会へ出席するのは数年ぶりで、当会を紹介してくれたUさんのことをTさんから聞き驚きでしたが、時間の許す限り、当会の行事に参加して行きたいです。

(M・K)



春のとくくみ

なくせ原発！再稼働はんたい！ おおさか集会 2026

日時：3月7日(土) 14:00~16:30  
集会後近隣駅でスタンディング予定  
会場：クレオ大阪東  
主催：原発ゼロの会・大阪

ひばくしゃのはなしを聞く会  
日時：3月22日(日) 14:00~  
会場：大阪原水協事務所会議室

非核「神戸方式」決議51周年記念のつどい  
日時：3月22日(日) 13:30~  
オンライン併用  
会場：神戸駅前研修センター  
記念講演：半田滋  
資料代：1000円  
主催：非核「神戸方式」決議記念集会  
実行委員会

保健所を守る大阪市民の会30周年記念講演  
憲法25条と公衆衛生 一憲法25条がない暮らしと憲法9条のない日本を考えよう  
日時：3月13日(金) 18:30~20:10  
会場：大阪府保険医協同組合5階M&Dホール

非核の政府を求める大阪の会 第40回年次総会 メッセージ・祝電

【自治体】

広島市長	松井一實	長崎市長	鈴木史朗
枚方市長	伏見 隆	交野市長	山本 景
摂津市長	嶋野浩一朗	寝屋川市長	広瀬慶輔
岸和田市長	佐野英利	和泉市長	辻 宏康
泉佐野市長	千代松大耕	阪南市長	上甲 誠
島本町長	山田紘平	能勢町長	岡田正文
河南町長	森田昌吾	太子町長	田中祐二
忠岡町長	是枝綾子	岬町長	田代 堯

【団体】

- 非核の政府を求める会常任世話人会
- 非核の政府を求める滋賀の会
- 非核の政府を求める和歌山県民の会 西村佳三
- 進歩と革新をめざす大阪の会 (大阪革新懇) 藤川隆広
- 大阪商工団体連合会 田端志郎
- 社会医療法人 同仁会
- 関西合同法律事務所
- 大阪府立高等学校教職員組合 志摩 毅

(順不同・敬称及び代表者名略)